

## 英語多読・多聴のすすめ

皆さんは英語の学習法で、「多読」ということばを聞いたことがありますか？ 英語多読とは、自分の興味とレベルに合った英語をたくさん読む勉強法を指します。基本的に日本語に訳すことはしません。辞書も引きません。初めて多読について聞いた人は、「え？ それで英語の力がつくの？」と思うかもしれませんが、多読は言語習得理論にもかなった、効果的な外国語学習法なのです。

まずは図書館の英語多読コーナーで、多読用図書をのぞいてみましょう。多読では「やさしいものから」がとても大事で、徐々に難易度を上げていくようなシリーズが多数準備されています。国語で「〇年生用」というように、英語圏の子ども用に作られているLeveled Readersや、使われている語彙や文の長さ、構文が英語学習者用にコントロールされているGraded Readersなど、読み手がやさしいものから少しずつレベルを上げられるように工夫されています。また英語の絵本もおすすめです。子どものころ「はらぺこあおむし」や「スイミー」を楽しく読んだ経験がある人もいるかもしれません。英語で改めて絵本を読んでもみるのも、楽しんで英語を学ぶいい方法です。単語がわからなくとも1ページの語数が少なくイラストで内容がわかるので、楽しみながらページをめくってくださいね。

多読では、選んだ本を「辞書を引かず」「わからないところは飛ばし」ながら読んでみてください。もし辞書を引かないと何の話かわからない、飛ばす場所が多すぎて筋を追っていけないのであれば、その本は自分の英語力に合っていないのです。一番大切なことは、やさしくすらすら読める本を選ぶことなので、「自分に合わない、おもしろくない」と思ったら、あっさり別の本に切り替えましょう。1冊ずつとても薄い本がほとんどなので、自分が読める、面白いと思った本を、できるだけ定期的に継続して読み、読んだ総語数を積み上げていくようにすると、どんどん英語力がついていきます。ここで、先輩の体験談を紹介します。



英語多読コーナー（本館2階）

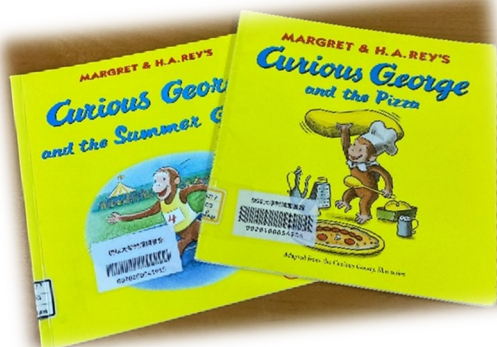
私は大学1年生の頃に履修していた英語講読演習中級の授業で多読を行いました。多読とは、学習者向けに語彙数や文法などが統制されたやさしい本を大量に読むことを言います。読む際のルールとして、①辞書は引かない、②わからないところはとばす、③つまらなくなったら読まない、の3つが多読のルールです。また、多読を継続することで、読解力の向上、モチベーションの向上、英文読解速度の向上、ライティング力の向上、語彙習得、TOEFLやTOEICなどの検定試験スコアの向上などが報告されています。私は授業で毎週図書館にある多読コーナーから2冊程度読み、1学期間で何語読んだか記録していました。子ども向けの簡単な本でイラストもたくさん描かれているのでどんどん読み進めていくことができます。また、種類も豊富で自分の興味がある分野の本など自分で読みたい本を選べるのがこの多読の良いところだと思います。私は日本でも放送されている「おさるのジョージ」の多読本をたくさん読みました。小さい頃から親しんできたキャラクターの本を読むことはとても面白く、印象に残っています。

もう一つおすすめの本を紹介したいと思います。「[I Can Read!](#)」の「Amelia Bedelia」シリーズです。アメリア・ベデリアは20冊以上のシリーズの絵本のタイトルで、主人公の名前です。アメリア・ベデリアは家政婦で、とても働き者ですが、思い込みが激しく、言われたことを勘違いし、数々の派手で面白い失敗をします。この数々の面白い失敗は、実際に図書館に行って読んでみてください。また、多読本として有名な「[Oxford Reading Tree](#)」もたくさん置いてあります。

皆さんも多読で楽しく、英語力アップを目指してください。

(国際地域創造学部2024年度卒業 赤城海斗)

※2025年4月現在



「おさるのジョージ」シリーズ



「Amelia Bedelia」シリーズ

いかがでしたか？ 多読用図書の多くはシリーズものになっているので、1冊「これだ！」と思う本が見つかったら、ぜひ同じシリーズの制覇を目指してください。

もっと難しいものに挑戦したい人には、映画や文学作品を読みやすくまとめたRetold版もあります。自分のレベルと好みがわかってきたら、読んだ日付と本のタイトルを記録し、総語数を計算していきましょう。読んだ冊数、語数が増えていくとモチベーションアップにもつながり、継続の力が実感できるはず。多読では「多量の英語インプットを得る」ことが、英語力アップの条件なのですから。

より詳しく多読について知りたい、本選びの情報が欲しい、という場合は、SSS英語多読研究会のサイト (<https://www.seg.co.jp/sss/learning/>) を参考にしてください。

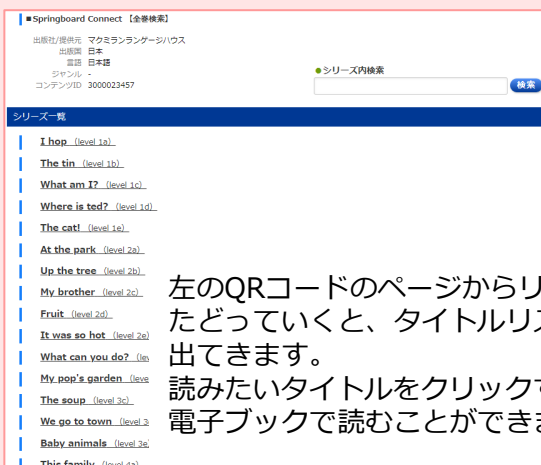
SSS (Start with Simple Stories) は効果的な英語力育成を目指し「100万語多読」を提唱した酒井邦秀先生、古川昭夫先生を中心とした国内最大の多読研究・実践グループで、多読を開始・継続するコツが満載です。自分の読んだ本の語数が知りたい場合は、タイトルをネット検索すれば、ほとんどの本の語数情報を得られます。

また琉大図書館では、電子ブックの充実にも力を入れています。[琉大図書館ウェブサイトから多読電子ブックにアクセス](#)して、ご自身の端末でぜひ多読を始めてみませんか？他にもインターネット上には無料で読める（音も聞ける）多読本、さらには語数を記録できるアプリの登場など、どんどん便利になっているようです。今まで英語は苦手だったという人も、英語力をさらにアップさせたいという人も、楽しく学べる英語多読を学生生活に取り入れてみませんか？

さらに、琉大図書館では2024年10月から、英語以外にもドイツ語、フランス語、スペイン語の多読用図書が読めるようになりました！場所は、今まで英語多読コーナーが設置されていた[グローバルcommons津梁](#)です。大学生になって、英語以外の外国語の学習を開始した皆さん、現在これらの外国語の習得を目指して学習している皆さんも、ぜひ多読を取り入れた学習法にチャレンジしてみてください。

(国際地域創造学部 東矢光代)

電子ブックで読める英語多読本の紹介ページは[こちら](#)から



左のQRコードのページからリンクをたどっていくと、タイトルリストが出てきます。読みたいタイトルをクリックすると、電子ブックで読むことができます。